

2019 Disclosure

上半期の事業報告

(平成31年4月1日～令和元年9月30日)



青梅信用金庫

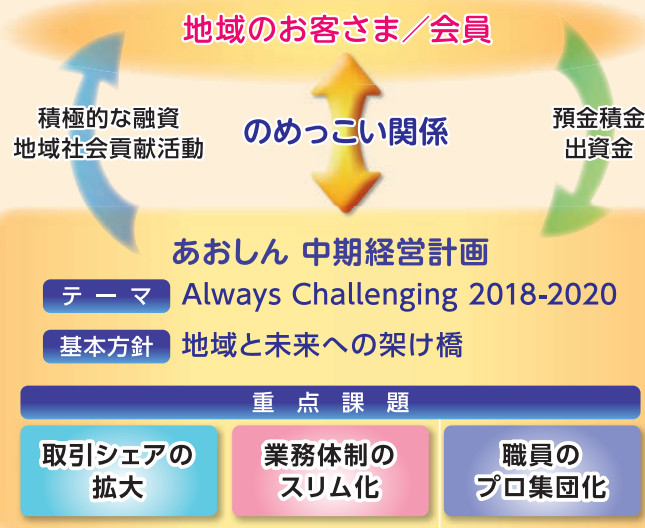
令和元年度 上半期の業績をご報告します



あおしんは、令和4年3月6日に創立100周年を迎えます。創業の精神である“共存同栄”の理念のもと、多くの地域の方々に支えられて発展してまいりました。

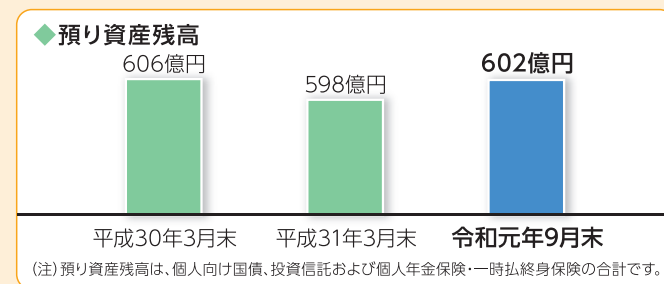
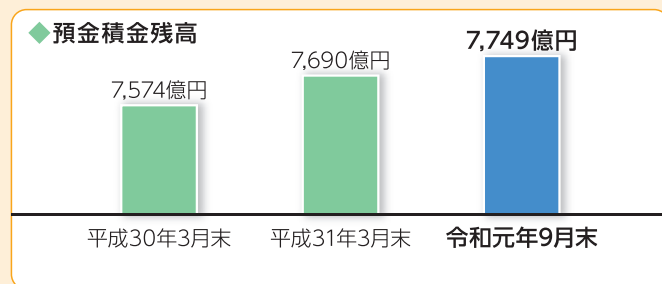
平成30年度からスタートした3か年の中期経営計画では、「Always Challenging 2018-2020」をテーマに掲げ、地域と未来への架け橋となるために役職員が一丸となって地域の発展に貢献できるよう挑戦し続けていきます。

経営目標		
指標	令和元年度年間目標	令和元年度半年間の実績 (4月～9月)
自己資本比率	9.5%以上	9.77%
不良債権比率	3%台	3.44%
当期純利益	21億円	15億円



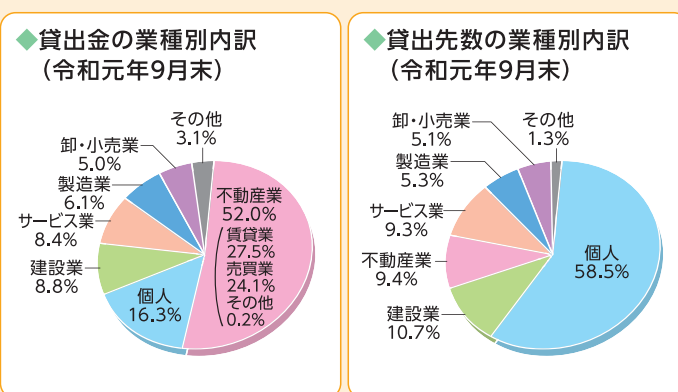
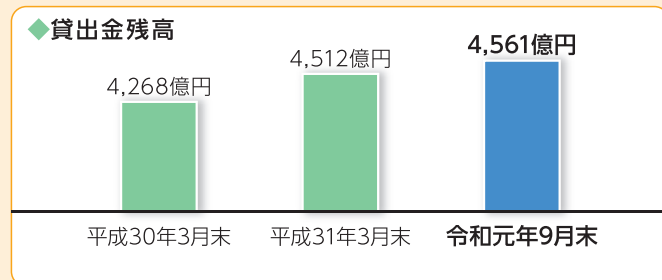
預金積金と預り資産の状況

令和元年9月末の預金積金残高は、平成31年3月末比58億円増加し、7,749億円となりました。また、令和元年9月末の預り資産残高は、投資信託が9億円増加しましたが、年金保険の満期、個人向け国債の償還などにより、平成31年3月末比4億円増加の602億円となりました。



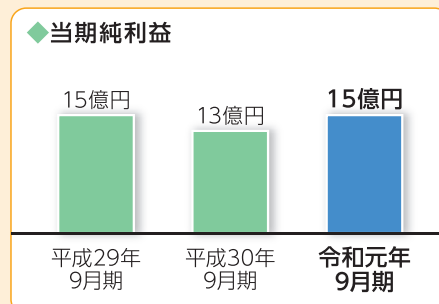
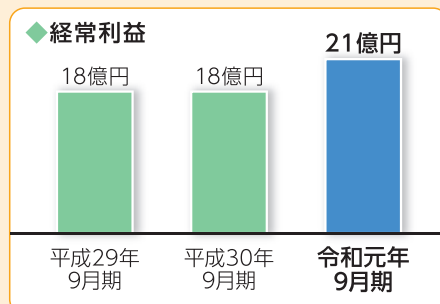
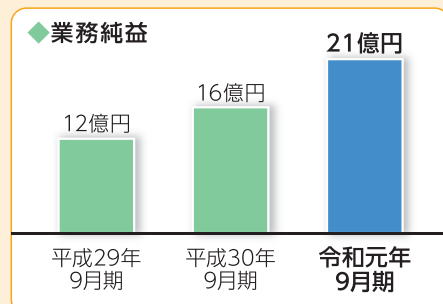
貸出金の状況

令和元年9月末の貸出金残高は、地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、平成31年3月末比48億円増加し、4,561億円となりました。



損益の状況

金融機関の本業の収益を示す業務純益は、資金運用収益の増加や経費の削減に努めた結果、平成30年9月期に比べ4億6千万円増益の21億円となりました。また、当期純利益は法人税等の増加もありましたが、平成30年9月期に比べ1億8千万円増益の15億円となりました。



自己資本比率の状況

自己資本比率は、金融機関の健全性・安全性を示す重要な経営指標の一つです。信用金庫などの国内で業務をおこなう金融機関は4%以上の自己資本比率が求められている中、十分な水準を維持しています。

自己資本の構成および定量的な開示事項

(単位:百万円)

	平成31年3月末	令和元年9月末
自己資本の額(A)	43,286	44,782
コア資本に係る基礎項目の額	43,395	44,896
コア資本に係る調整項目の額	109	113
リスク・アセット等の額の合計額(B)	453,300	458,356
自己資本比率(A)÷(B)	9.54%	9.77%
単体総所要自己資本額	18,132	18,334
信用リスクに対する所要自己資本の額	17,320	17,522
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	811	811

有価証券の状況

お客さまからお預りしている預金積金は、貸出金のほか、有価証券でも安全性を重視した運用をしています。

令和元年9月末の有価証券残高は、国債・社債の償還により減少、マイナス金利政策継続による金利低下の影響から債券の償還資金再運用を控え、預け金へ振り替えた結果、平成31年3月末比55億円減少し、1,109億円となりました。

◆その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

種 類	平成31年3月末			令和元年9月末		
	貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
株式	2,064	1,812	251	1,918	1,670	247
債券	91,509	88,685	2,824	89,390	86,471	2,918
国債	26,194	24,640	1,553	23,545	21,938	1,607
地方債	14,383	14,078	305	12,218	11,977	240
社債	50,931	49,966	964	53,625	52,556	1,069
その他	22,937	20,913	2,024	19,607	16,860	2,747
合計	116,511	111,411	5,100	110,915	105,002	5,913

(注) その他有価証券で上場されていない証券等のため時価を把握することができない有価証券が、平成31年3月末58百万円、令和元年9月末58百万円あります。

◆子会社株式

(単位:百万円)

種 類	平成31年3月末			令和元年9月末		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
子会社株式	5			5		

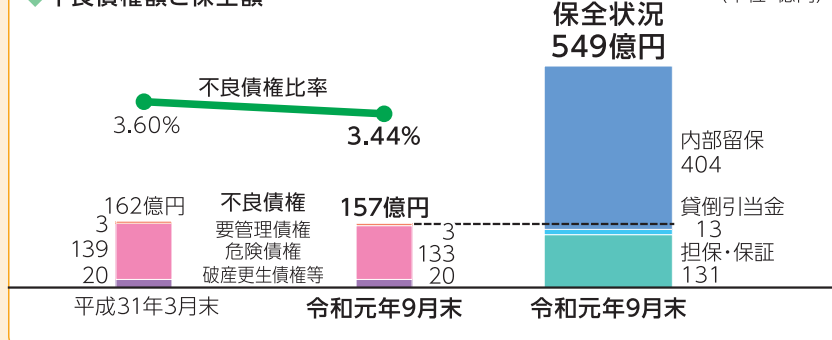
◆満期保有目的の債券、売買目的有価証券および関連会社株式はございません。

金融再生法で定められている開示債権と保全状況

不良債権額157億円に対しては、確実に回収される担保・保証額と貸倒引当金との合計額144億円によってカバー(保全)され、保全率は92.17%となっています。さらに、別途特別積立金等の内部留保404億円により盤石な態勢をとっており、より一層の資産の健全化に努めています。

◆不良債権額と保全額

(単位:億円)



◆金融再生法開示債権及び同債権に対する保全状況

(単位:百万円・%)

区 分		開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等による 回収見込額(c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b)÷(a)	引当率 (d)÷(a-c)
金融再生法上の不良債権	平成31年3月末	16,290	15,193	13,661	1,531	93.26	58.24
	令和元年9月末	15,728	14,496	13,167	1,329	92.17	51.92
破産更生債権及び これらに準ずる債権	平成31年3月末	2,045	2,045	1,872	173	100.00	100.00
	令和元年9月末	2,031	2,031	1,577	454	100.00	100.00
危険債権	平成31年3月末	13,930	12,912	11,675	1,236	92.69	54.83
	令和元年9月末	13,387	12,244	11,476	768	91.46	40.19
要管理債権	平成31年3月末	314	235	113	121	74.73	60.46
	令和元年9月末	308	220	112	107	71.32	54.87
正常債権	平成31年3月末	435,413					
	令和元年9月末	440,804					
合計	平成31年3月末	451,704					
	令和元年9月末	456,533					

(注) 1. 対象債権は貸出金、債務保証見返、外国為替、未収利息等の資産です。

2. 不動産の担保評価は路線価の70%で評価しております。また、保証は信用保証協会等の優良保証などです。

掲載している比率・金額は、単体ベースです。単位未満を切り捨てて表示しているため、合計・差額等と一致しない場合があります。

🌸 狭山支店を新築移転しました

昭和47年3月に開店した狭山支店を令和元年5月20日に新築移転しました。新しい店舗は、西武新宿線狭山市駅東口から徒歩5分の場所に位置しています。

今後もお客さまのお役に立てる“のめっこ信用金庫”を目指してまいりますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

狭山支店

住所：〒350-1307 狭山市祇園10-12 電話：04-2957-5551 ※電話番号は変更ありません。



🌸 美しい多摩川フォーラムを応援しています

あおしんは、地域の活性化と自立を目指し、平成19年7月、官民により設立された「美しい多摩川フォーラム」(事務局は当金庫)の地域づくり運動を応援しています。私たちはこの運動の柱となっている「経済・環境・教育文化」の3つの視点からボランティア活動に積極的に参加し、持続可能な地域社会の実現に努めています。

〈主な活動〉

桜ウォーキングと桜守学校



多摩川一斉水質調査



炭焼き体験と水辺の交流会



詳しくは、美しい多摩川フォーラムのホームページをご覧ください。美しい多摩川フォーラム事務局 TEL:0428-24-5632

美しい多摩川フォーラム

美しい多摩川

検索

<http://www.tama-river.jp/>



● 青梅信用金庫の概要 (令和元年9月30日現在)

創立：大正11(1922)年3月6日

本店所在地：〒198-8722

東京都青梅市勝沼三丁目65番地

☎0428-24-1111 (代表)

<http://www.aosyn.co.jp/>



預金積金：7,749億円

貸出金：4,561億円

有価証券：1,109億円

出資金：23億円

出資口数：4,674,831口

会員数：47,335人

店舗数：36店舗

店舗外ATM：9店舗

役員数：660人